

職場や家庭で、障害福祉施設の製品を 是非お試しください

長崎県CSR通信
～ 第81号 ～

長く続いた猛暑もようやく一段落。そろそろ温かい緑茶が恋しい季節になりました。長崎県産茶の代表的な銘柄である「そのぎ茶」をご存知の方は多いと思います。では、障害福祉施設で、そのぎ茶が生産されていることはご存知ですか？社会福祉法人あゆみ会の就労継続支援A型事業所ワークセンター様（東彼杵町蕪郷）では、長年、そのぎ茶の生産をされています。今回は、ワークセンター管理者の松田様にお話を伺いました。

～ 障害福祉施設(ワークセンター)で、そのぎ茶を生産～

- お茶の作付面積は、どのくらいですか？

松田さん「2.7ha（長崎県営野球場の面積とほぼ同じ）、地域では平均的な規模です。」

セールスポイントは？

「除草剤は使用せず、雑草は利用者がこまめに取っています。

製茶は厳重な衛生管理のもと、フルオートメーション化されています。どうぞ安心してお召し上がりください。」

主な販路は？

「老人福祉施設やスーパーなどです。もちろん、ふれあいバザールなど福祉の店でも販売しています。」

A型事業所として運営されている以上、相当の売り上げが必要になるとは思いますが・・・

「大内田信之理事長の理念は『すべての利用者を最低賃金の減額（除外）申請の対象としない。売り上げアップは職員の責務』です。今は、三番茶も過ぎ、お茶の作業がないため、チューリップのラベル貼りやおせち料理用の箱折など、新しい仕事を取るため、時間を見つけて営業に回ります。

ちょっとした情報を見逃さず、スピーディに仕事を取ることを心がけています。

いろいろ大変ですが、かわいい利用者のためと思えば頑張れます。」



ワークセンターの主力商品 そのぎ茶
チューリップの球根のラベル貼り
受注数は、ざっと1万6千個！



取材当日から始めた、おせち料理用の箱折作業。皆さん慣れない手つきで、汗だくになりながら奮闘されていました

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、その旨ご連絡ください。

「長崎県CSR通信」 発行部数2,549部 電話095-895-2454 FAX095-823-5082
発行 長崎県障害福祉課（今回の担当：北御門）平成23年9月23日
バックナンバーは、Webで「長崎県CSR通信」で検索！



写真はNGでしたが、松田さんの印象、実年齢より遥かにお若い！若さの秘訣を色々お聞きしましたが、一番大事なことは、とにかく楽しく仕事することだそうです。また、松田さんは、頭の回転がとても速く、質問に適切に答えていただくと同時に、利用者への目配り気配りもしっかりされていました。本来の取材のほか、アンチエイジングの話も色々お聞かせいただき、とても楽しい時間を過ごしました。

障害福祉施設等の特色ある取組を ご紹介します

長崎県CSR通信
～ 第82号 ～

大村市内の郵便局では、地域を元気にしようと年に数回大村郵便局にて物産展を開催しています。

今回、10/6～7に開催された物産展に障害者福祉施設が参加されましたので、そのいきさつなどについて竹松郵便局石丸局長様にお話を伺いました。



「第4回大村物産展 in 郵便局」にて障害福祉施設商品を出品

開かれるのは、4回目とのことですが、どういったきっかけで開催されるようになったんですか？

石丸局長「大村には素晴らしい物産が沢山あるのに、意外と地元の方がご存知なかったんです。そこで、大村の物産を紹介するとともに、地域が元気になるようにしたいと考え開催するようになりました。」

出展している店舗はどのように募っているのですか。

また、障害者福祉施設が参加するようになったきっかけは？

石丸局長「大村市内にある14郵便局が地域の店舗に声をかけ出展店舗を募っています。施設の出展は、「障害者福祉施設ではいいものを作っているのに、販売する機会が少ない」との声を聞き、郵便局としても、協力できないかと考え、参加していただくことになりました。第1回から参加していただいている施設もあります。」

出展店舗数は？うち障害者福祉施設は？

石丸局長「全26店舗です。うち7店舗が障害者福祉施設です。今回は3施設が初出展です。」

施設商品の評判はいかがでしょう。

石丸局長「いい商品が多いので、好評いただいていますよ。」

➤ 右上へ続きます。

来年度以降も開催されますか？

石丸局長「開催します。まだまだ、この物産展自体の認知度を上げる必要がありますので、毎年開催することが大切と思っています。もちろん、施設にも出展していただきます。」



今回対応していただいた石丸局長



物産展の風景。一般出展のお店に負けず劣らず、賑わっていました。みなさんお疲れ様でした！

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、その旨ご連絡ください。

「長崎県CSR通信」 発行部数2,524部 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

発行 長崎県障害福祉課（担当：藤川）平成23年10月14日 バックナンバーは「長崎県CSR通信」で検索
この物産展に出展している一般のお店の商品を施設で販売したり、施設と一般のお店がコラボして新商品を開発するなど、出展業者同士が連携して、お互いにメリットある関係を築いているそうです。
好事例があれば紹介しますので、ご期待ください！

ミスタードーナツのフランチャイジーである有限会社ウミノ様（長崎市）では、知的障害のある方を1名雇用されています。現在、県内10店舗目となるミスタードーナツイオン東長崎ショップ（今年7月オープン）で働いていらっしゃいます。
今回は、雇用に至った経緯などについて、中野店長様にお話を伺いました。

障害者の雇用事例紹介 ～ ミスタードーナツ イオン東長崎ショップ ～

いつから雇用されていますか。また雇用するようになったきっかけは？

中野店長「7月上旬までは、みらい長崎ショップ（みらい長崎ココウオーク店）で約3年間一緒に働いていました。

今回、私がイオン東長崎ショップのオープニングスタッフとして異動が決まった際に、彼にも一緒に異動してもらいました。

みらい長崎ショップで雇用するようになったきっかけは、ハローワークからの紹介です。

最初は、約2週間の職場実習から始め、本人の人柄、働きぶりをみて採用しました。」
働きぶりはいかがですか？

中野店長「まじめに働いてくれてますよ。お金のやりとり以外は、他のアルバイト職員と何ら変わりません。接客だけでなく飲茶も担当しています。店の貴重な戦力ですよ。」

職場で、気をつけている点などありますか。

中野店長「コミュニケーションをとるよう心がけています。私の場合は、交換日記をしています。内容は、仕事のことだけではなく、日常の出来事など何でもやりとりしています。

このことが、本人の表現力の向上にもつながりますし、思いや考えていることもわかります。また、やりとりを通じ感じたことは、他のアルバイト職員への教育にも役に立つこともあります。

障害者を雇用するということは、こちらにとっても非常にいい勉強になります。」



今回対応いただいた中野店長

「障害者を雇用することで、自分にとっても大きな勉強になる！」との言葉が印象的でした。



接客風景。大きくて、はきはきした声が取材中も聞こえてきました。 コーヒーごちそうさま！

<知的障害者職業自立支援ワークショップ>のお知らせ
日時・場所 H23.12.3 9:30～ アリーナかぶとがに
問い合わせ・申し込みは、(社)長崎県手をつなぐ育成会
(TEL095-846-8730)まで。

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、その旨ご連絡ください。

「長崎県CSR通信」 発行部数2,523部 電話095-895-2454 FAX095-823-5082
発行 長崎県障害福祉課（担当：藤川）平成23年10月28日 バックナンバーは「長崎県CSR通信」で検索
取材中、忙しい合間を縫って、原統括部長もお見えになりました。
有限会社ウミノ様では毎年、障害福祉施設や特別支援学校より、各店舗1名ずつ実習を受け入れておられます。
今後、仕事の適性などを見極めたうえで、新たな採用に向けて検討されるとのことでした。

ふくしフェスタ2011 in アミュプラザ長崎のお知らせ

県内各地や県庁1階で障害者福祉施設の商品を販売する「ふれあいショップ」が年に一度、JR長崎駅かもめ広場で大規模な販売会を行っていることをご存知ですか？
今回は、12/2~12/5の4日間行われる「ふくしフェスタ2011 in アミュプラザ長崎」について、実行委員長のながさきワークビレッジ（長崎市）竹内一施設長にお話を伺いました。

「ふくしフェスタ」の目的を教えてください。

竹内様「県内外の障害者福祉施設では、自立・就労を目指して障害のある方々が製品作りに励んでいます。しかし、施設製品や製作活動の姿は施設を訪問していただくか、バザール等での販売を通してでしか知っていただく機会がありません。

そこで、県民の方々にもっと理解を深めていただくとともに、障害のある方々の社会参加を促進することを目的に毎年開催しています。」

今回のフェスタについて、特にPRしたいことはありますか？

竹内様「今年度は甚大な被害に見舞われた東北の復興支援の為、被災地の授産製品を販売します。

また、アトラクションとして、よさこいソーランや龍踊りなどの催しを企画しています。多くの方のご来場をお待ちしています。」

< 出品予定 >

縫製品、海産物、パン、ケーキ、ラスク、木工品、真珠、宝飾品、陶器、漬物、各種そのぎ茶 など盛りだくさん！



昨年の風景。
今年は、県内外の約50施設が出展予定。



今回対応いただいた竹内施設長

ながさきワークビレッジ様では、木工品製作から自動車整備まで多彩な取組を行っています。冬からは、お菓子の製造にさらに力を入れるとのことでした。

< 知的障害者職業自立支援ワークショップ >

のお知らせ

日時 平成23年12月3日(土) 9:50~

場所 県立総合体育館 大研修室

(アリーナかぶとがに)

内容 【講演】

~ 植村牧場ではたらく障がい者たち ~

【報告】

~ 障害者雇用の現状と課題について ~

他

問い合わせ・申し込みは、(社)長崎県手をつなぐ育成会
(TEL095-846-8730)まで。

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、その旨ご連絡ください。

「長崎県CSR通信」 発行部数2,523部 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

発行 長崎県障害福祉課 (担当: 藤川) 平成23年11月11日 バックナンバーは「長崎県CSR通信」で検索
今年で、10回目となる「ふくしフェスタ」。実は私・・・、行ったことがありません。(今年は必ず行きます!!!) 行ったことがある方はもちろん、行ったことがない方も是非行きませんか?(評判はかなりのいいんですよ)

何が売ってるの? など、気になることがありましたら、藤川までご連絡ください!!

最近、女性だけではなく男性もスキンケアするようになってきました。
今回は特に、スキンケアに関心のある方は必見です。
全国でも唯一真珠を中心とした宝飾品の加工・販売を授産科目として取り組んでおられる身体障害者授産施設パールハイム様（大村市）から真珠養殖に用いられるアコヤ貝を活用したスキンクリームを販売したとの情報をいただきましたので、その経緯等について、パールハイム田崎施設長様と商品開発に尽力された県工業技術センター晦日（みそか）専門研究員にお話を伺いました。

～ 障害福祉施設（パールハイム）で、スキンクリームを販売～

スキンクリームを販売するに至った経緯は？
田崎施設長「工業技術センター様がアコヤ貝真珠層タンパク質を配合したスキンケア商品の開発を行う過程で、研究材料のアコヤ貝殻真珠層を当施設で粗粉末に加工して、提供していました。その中で、商品化を検討中とのお話を伺い、試作品を使ってみて、これは非常に良い製品だと感じました。当施設では、日頃より、真珠製品を取り扱っていることもあり、今回、販売させて頂くことになりました。」

製品名と特徴を教えてください？

田崎施設長「パール美珠（ビジュ）」です。真珠層粉末と椿油を配合したクリームで、肌に張り・艶を与え、皮膚の乾燥を防ぎ、保湿性のある美しい肌を保つことができます。肌に優しい成分なので、お子様から大人まで幅広い方々に使用していただくことができます。」

どこで販売されていますか？

田崎施設長「ふれあいバザールの販売会、生活協同組合、物産振興会等です。」

評判はどうですか？

田崎施設長「以前行ったモニターアンケートでは、クリームの伸び、保湿性がよいとの感想をいただきました。特に乾燥肌の方から使用感がいいとの意見をいただいております。評判は上々です。」

沢山売れるといいですね！

田崎施設長「【いい商品はお客様が選ぶ】をモットーにこのすばらしい商品を多くの方にご愛用いただけるよう頑張ります。当然、工賃アップも目標です。」

スキンクリームとして実用化しようと思われたきっかけは？

晦日専門研究員「真珠養殖に使われるアコヤ貝は、養殖後、その貝殻がほとんど廃棄されます。この未利用資源を有効活用できないかと考え、長崎大や県内の化粧品会社と共同でスキンケア商品への応用に取り組むことにしました。」

苦労された点は何ですか？

晦日専門研究員「研究過程でも苦労はありましたが、それ以外に低コストでアコヤ貝殻真珠層を1ミクロン程に微粉末化することです。商品化に向けて、いかにコストを縮減するかという点も必要でしたので。」



お話を伺った田崎施設長（左）と晦日専門研究員（右）



パール美珠。画像が見にくい場合は障害福祉課のホームページで確認を。

『見えちゃうの こんな所に人の顔』『恋する 間もなく 入退院』
何だかわかりますか？

これは、精神に障害のある方が作った川柳の一句です。

大村市にある地域活動支援センター アトリエ ぼれぼれ様では、精神に障害のある方が書いた川柳を【かるた】にして販売しています。

今回は、アトリエぼれぼれの古本様に【かるた】製作に至った経緯などについて、お話を伺いました。

精神に障害のある方の川柳でかるたを製作～アトリエぼれぼれ～

かるた製作のきっかけは？

古本様「センターの活動の一つとして、川柳を作っていました。1年程前、県立大学の講師の方が来られた際、川柳をつかった【かるた】を作ってはどうかとの提案があり、製作することにしました。」

和紙を使った丈夫な【かるた】ですが、特徴を教えてください。

古本様「絵が上手な人が、絵を描き、朗読が上手な人が、札を読みCDにするなど、その人、その人の得意分野を生かして製作しています。また、台紙も牛乳パックを再利用したものや和紙で作っており、すべてが手作りの【かるた】となっています。」

利用者の方の反応はいかがですか？

古本様「製作当初は、自分たちが考えていることや普段思っていることを【かるた】にすることで、変な人と思われるかも知れないと話していました。

しかし、今では楽しく、遊んでもらいながら、自分たちのことを理解してほしい。知ってほしいと思っています。」

どこで販売されていますか？

古本様「福祉の店 アトリエぼれぼれ2で販売しています。ただ、手作りなので今は1セット作るのに1ヶ月程かかります。目標は2週間程度で製作できるようになって、多くの方に購入していただき、少しでも精神に障害のある方が理解されるようにしたいです。」



今回、対応いただいた古本様

ぼれぼれの由来は、アフリカのスワヒリ語で“ゆっくりゆっくり”という意味だそうです。



【アトリエ ぼれぼれビョーキかるた】1セット2,000円です。



アトリエ ぼれぼれ様は、【かるた】の他に、粘土細工、習字等の活動をされています。作業所には多くの作品が展示されていました。また、音楽活動に力を入れていて、年に1度音楽コンサートを開かれているそうです。

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、その旨ご連絡ください。

ビジネスマッチングフェア「おこしやす」に参加しました！

企業・自治体と障害のある方が働く作業所の関係者が一堂に会し、お互いの理解を深めるとともに、活発な商談が行われ、新しいビジネスや経営スタイルの創出の場となることを目的として、12月9日（金）に滋賀県においてビジネスマッチングフェア「おこしやす」

（主催：滋賀県、（社）滋賀県社会就労事業振興センター）が開催されました。今回は、開催された目的などについて、（社）滋賀県社会就労事業振興センター林様にお話を伺いました。



ビジネスマッチングフェアを開催するきっかけ、目的を教えてください。

林様「外向きへのアピール活動をしていなかった作業所が、地域とのつながり、企業との協働などを求めるため、企業参加のプレゼンテーションを開催したことがきっかけです。」

施設出展ブースはもちろん、カフェの設置やプレゼンエリアの設置など随所に工夫を凝らしていますね。

林様「平成20年度より開催していますが、回を重ねるごとに展覧の内容もレベルの高い内容になっていますし、ブース作り、商品企画など、個々の事業所がこのイベントへ向けて努力しています。」

今後の展望をお聞かせください。

林様「「おこしやす」関西版の開催です。他県を含めたフェアを開催することで、広いマーケットへ挑戦し、就労収入を大きく飛躍させるきっかけを作りたいと思います。」

（社）滋賀県社会就労事業振興センターHP <http://www.selp-shiga.net/>



今回対応いただいた林様（左）と本フェア副担当の市田様（右）



フェアの様子。会場は多くの方で盛り上がっていました！！



会場内には、施設出展ブースはもちろん、クラフツコンテストやプレゼンエリアなど、お客さんをひきつけるための工夫が沢山ありました。



本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、そのままご返信くださるようお願いいたします。

「長崎県CSR通信」 発行部数2,538部 電話**095-895-2454** FAX**095-823-5082**

発行 長崎県障害福祉課(担当:藤川)平成23年12月22日 バックナンバーは、「長崎県CSR通信」で検索をこのCSR通信も、障害福祉施設と企業等のマッチングのきっかけとなることを目的の一つとして発行していますが、やっぱり実際に施設の商品を見たり、触ったりすることが一番のいい方法だと感じました。私としても今後の参考となるフェアでした。

あけましておめでとうございます。
今年も「長崎県CSR通信」をよろしく申し上げます。
さて、右の写真の募金箱を見かけられたことがありますか？
この募金箱は、障害福祉施設のだるま会様（佐世保市）が製作されました。
今回は、製作に至った経緯等について、だるま会 土田様と発注した県国体・障害者スポーツ大会部 大会総務課 望月係長にお話を伺いました。



～ がんばくん募金箱（木製）は、障害福祉施設で製作～

がんばくん募金箱設置の狙いを教えてください。

望月係長「長崎がんばらんば国体・長崎がんばらんば大会実行委員会事務局では、県内外の法人・団体・個人より募金を募り、県民運動やボランティア活動などの大会運営経費に充てることとしています。募金の方法はいくつかあり、募金箱による募金もそのひとつです。がんばくん募金箱を県内各地に設置してもらうことで、両大会のPRもできると思います。」

障害福祉施設に発注した理由は何ですか？

望月係長「県が率先して障害福祉施設への発注を促進するとともに、施設の方々の長崎がんばらんば国体・長崎がんばらんば大会への参加機運を高めるためです。」

出来栄はいかがですか？

望月係長「手作りの温かみを感じられるととてもいい募金箱に仕上がったと思います。」

どこに設置されていますか。

望月係長「県機関をはじめ、県内市町庁舎や各種団体等へも設置をお願いしています。」

製作にあたり苦労された点は？
土田様「木材が県産ヒノキとの指定だったので、ヒノキの入手に苦労しました。木材は、十分に乾燥させたものでないと反ってしまい使い物にならないので。また、通常、募金箱等を組み立てる場合は、釘を使うと比較的早く製作できるのですが、今回は、極力釘を使わず、組み立てる方法で製作しましたので、その点も苦労したところです。利用者の方にも頑張ってもらい500個製作し、納期にも間に合わせる事ができました。」



今回対応いただいた土田様。事業所1Fの売店では、障害のある方が製作した木工製品や陶芸品が販売されています。

本FAXの送付を希望されない方は、大変お手数ですが、その旨ご連絡ください。

「長崎県CSR通信」 発行部数2,532部 電話095-895-2454 FAX095-823-5082
発行 長崎県障害福祉課（担当：藤川）平成24年1月13日 バックナンバーは「長崎県CSR通信」で検索
だるま会様では、木工品の注文製作にも対応していて、世界でひとつだけのオリジナル木工品を作れるそうです。また、年1回長崎バイオパークのからの注文があり、園内のテーブルや椅子などを製作されているそうです。

最大手検索サイトで「瑞宝」と入力すると、検索候補のトップに出てくる程の知名度を誇る、勤労障がい者長崎打楽団「瑞宝太鼓」(就労継続支援A型事業所：雲仙市瑞穂町)去る1月22日に島原市有明町で開催された「瑞宝太鼓県南公演2012～ともに歩む～」を見に行きました。メンバーは全員、知的障害のハンディがありながら、プロの和太鼓演奏グループとして、国内のみならず、海外でも活躍していらっしゃいます。今回は、公演直後のお疲れのところ、「瑞宝太鼓」の前田所長と岩本団長、高倉副団長にお話を伺いました。

～ 知的障害のあるプロの和太鼓集団「瑞宝太鼓」の紹介～

年々太鼓の腕前が上がっていますね。
前田所長「2010年8月に第9回東京和太鼓コンテストで優秀賞をいただきました。このコンテストで、太鼓の技術や音楽性など真の実力が認められ、大変感激しました。」
今後の主なスケジュールは？
「4月に行なわれる米国政府主催の桜祭りへの出演を打診されています。この祭りは米国最大級といわれています。公演場所は、ニューヨーク桜パークやワシントンDCなどです。是非実現したいと思っています。」

今後の課題や抱負をお聞かせください。
「やはり後継者の育成ですね。現在、研修生を含め12名で、1チームしか編成できません。今後、もっとメンバーを増やして、複数のチームで、より多くの方に瑞宝太鼓を楽しんでいただきたいですね。そして、知的障害のある方が、太鼓を職業として自立し、生き活きた人生を歩んで欲しいです。全国各地のサポーターと共に手を取り合って『瑞穂の宝』にしていきたいですね。」

ものまね得意のパパ、岩本団長(右)と、

ひとり格闘技が得意？の高倉副団長(左)



一日の練習時間は？
高倉さん「8時間です。仕事ですから。」
今回、地元開催ということで有明町の曲(平成有明音頭)も演奏されましたが、どのくらいで覚えたのですか？
高倉さん「3日間です。通常は曲を覚えるのに半年、自分のものにするのに一年かかりますよ。」
今回の演目、地元中学の吹奏楽部とのジョイント演奏で難しかったところは？
高倉さん「縦のラインの合わせ方です。」
今では国内外で演奏されていますね？
岩本さん、高倉さん「北は北海道から南は沖縄まで回りました。また、演奏だけではなく、私達は『夢大使』として活動しながら、作曲も頑張っています。」



魂の響きとは、まさにこういうことなのかと感じています
素晴らしい演奏、本当にありがとうございました！

「長崎県CSR通信」 発行部数2,523部 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

発行 長崎県障害福祉課(担当：北御門)平成24年1月27日 Webで「長崎県CSR通信」で検索！
岩本団長の夢は、一人息子と一緒に太鼓チームを作ること。高倉副団長の夢は、自分が教える太鼓グループで作曲を手掛け自分の演出で公演を開催することだそうです。それぞれ夢に向かってがんばってください！



「高次脳機能障害」という障害をご存知ですか？

交通事故や病気など様々なことが原因で脳に障害が起こることです。（いつでも誰でもなり得る障害です。）今回は、先日開催した「就労移行支援事業所等職員の専門研修」で高次脳機能障害者の就労支援について講義いただいた就労支援センターほっぷ代表 深野せつ子様（宮城県仙台市）にお話を伺いました。

～ 高次脳機能障害者の就労支援について ～

高次脳機能障害とは、どんな障害ですか？

深野様「高次脳機能障害とは、くも膜下出血や脳梗塞といった脳血管障害や、事故などによる脳外傷、脳炎、低酸素脳症など脳を損傷したことで起こった後遺症で、怒りっぽくなったり、記憶障害や、注意力障害など、いままでに見られなかった症状が現れる障害です。」

ほっぷ様における、これまでの高次脳機能障害者の就労実績は？

深野様「20名です。うち一般就労は9名、就労継続支援事業A型5名です。A型事業所の5名は約10年位自分の障害そのものが理解できず、周りからも理解されず、生きる自信をなくしていた方々で、就労にも自信がなかった状態でしたので、当事業所のレストラン（A型事業所）で支援を受けながら社会復帰の第1歩にトライされた方々です。高次脳機能障害があっても少しの支援があれば働けるということを証明してくれたことは、同じ障害のある方々に大きな勇気を与えてくれました。」

高次脳機能障害者の就労支援を行ううえで、気をつけていることは？

深野様「高次脳機能障害のある方は、自分の病識があまりないことと、記憶力の低下で忘れてしまうので、仕事として求められることに対応するのに、特別なサポートが必要となることです。

また、本人の中にはこの障害になる前の自分の姿が記憶に残っていますので、そこを理解して向き合っていくことも必要なことです。」

高次脳機能障害者を雇用するうえで、企業側が気をつけるべきことは？

深野様「人によって現れる症状もさまざまです。支援してくれた機関から十分な情報をいただくことと、できればジョブコーチなどをつけていただき、どんな仕事に対して、どんなサポートをしたらいいか計画を立てて、取り組んでいただければ、能力は上がっていきます。」

一般就労に関して、企業側へお願いごとがあれば。

深野様「まず、この障害はどこにでもある、誰でもなる可能性のある障害です。

ですから、今いらっしゃる社員さんが高次脳機能障害者となることもあります。その時はどうぞ、医療機関や支援機関と相談されて、その方の継続雇用をお願いしたいです。

それから、あまり聞いたことのない障害であることで、敬遠することなく、障害者枠の新規採用者として、高次脳機能障害者にも門戸を開いていただきたいです。」



今回お話を伺った深野様。
講義ありがとうございました。

「長崎県CSR通信」 発行部数2,527部 電話095-895-2454 FAX095-823-5082

発行 長崎県障害福祉課（担当：藤川）平成24年2月10日 バックナンバーは「長崎県CSR通信」で検索
就労支援センターほっぷ様は、主に知的障害と高次脳機能障害のある方を対象に一般就労を目指して訓練している事業所です。【ほっぷ】の名前由来は、就労を目指して、ほっぷ、すてっぷ、ジャンプの【ほっぷ】とのこと。 貴重な講義とお話をさせていただきありがとうございました。